


学位論文審査報告書





報告番号	北里大 甲 第1205号	氏 名	千成 恒
論文審査担当者	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>(主査) 北里大学教授</p> <p>(副査) 北里大学名誉教授</p> <p>(副査) 北里大学教授</p> <p>(副査) 北里大学准教授</p> </div> <div> <p>牧野 一石</p> <p>梶 英輔</p> <p>藤井 秀明</p> <p>岩月 正人</p> </div> <div style="text-align: right;">  </div> </div>		
<p>[論文題目]</p> <p style="text-align: center;">「抗寄生虫活性を有する微生物由来天然物をリードとした創薬研究」</p> <p>[論文審査結果の要旨]</p> <p>千成恒氏の論文は北里研究所において見出された微生物由来天然物 puberulic acid をリードとした創薬研究、ライブラリー構築を指向したエバーメクチンの合成研究に関するものである。論文では天然からの供給が困難な化合物の量的取得を目指した効率的な全合成経路の確立に始まり、確立した経路を用いた誘導体合成による構造活性相関の解明、天然物の課題を克服した薬剤候補化合物の創製に至った結果について述べられている。また、複雑な天然物の効率的なライブラリー構築のための戦略の立案から、各フラグメントの合成法の確立の過程が示されている。本文では予想外な実験結果に対して十分に化学的考察を行い、困難な課題に直面した場合にも適切な代替法が考案されているなど、審査担当者は千成氏の問題解決能力の高さを評価した。</p> <p>また諮問では、有機合成化学の知識のみならず研究全体を統括する能力や今後期待され</p>			

る研究成果などについても審査した。論文中には天然物の合成過程での多くの検討結果が記載されており、実際の合成経路には含まれない化合物や知見が見受けられた。千成氏はこれらを基に、すでに今後のプロジェクトに期待される成果とそれに伴う具体的な研究計画も立案しており、誘導体合成や構造活性相関研究などの今後の創薬研究への展開が期待される。

本論文は、生命科学における有機化学および創薬科学分野の発展に大きく寄与するものであり、生命科学領域の業績として高く評価できる。

以上のように、千成氏より提出された学位論文の審査と面接の結果、同氏は博士（生命科学）の学位を授与するに値すると判断した。

最終試験結果報告書

報告番号	北里大 甲 第 1205 号	氏 名	千成 恒
論文審査担当者	<div> (主査) 北里大学教授 牧野 一石  </div> <div> (副査) 北里大学名誉教授 梶 英輔  </div> <div> (副査) 北里大学教授 藤井 秀明  </div> <div> (副査) 北里大学准教授 岩月 正人  </div>		
<p>[成績]</p> <p style="text-align: center;">合 格</p> <p>[試験結果の要旨]</p> <p>試験担当者は、千成 恒氏に対し、学位論文及び関連事項に関する諮問を行った結果、合格と判断した。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>			